

公衆衛生学		講義	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	13331201 13531203

1. 授業のねらい・概要

本講座では、公衆衛生学の基本的な知識、考え方、その役割、重要性に加えて、疫学概念、歴史について理解し、疾病頻度の指標、各種疫学研究方法、誤差、偏りと交絡（こうらく）、そしてサーベイランスと疾病登録について学び理解することを目的とする。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

3. 授業計画

1. 健康科学, 世界・日本の人口	9. 主な統計指標, 疫学各種の研究方法
2. 妊娠・出産と胎児及び申請時・乳幼児の保健	10. 介入研究, 誤差・偏り・交絡（こうらく）
3. 青少年・成人の保健	11. サーベイランスと疾病登録
4. 老年期・心の健康と心身障害	12. 因果関係と必要条件・十分条件
5. 環境衛生・環境汚染と公害	13. 標準化
6. 微生物による病気・食物と健康	14. スクリーニング
7. 職業生活と健康, 保険・医療行政	15. まとめ
8. 疫学の歴史, 曝露と疾病, 疾病頻度の指標	

4. 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習, 理解し, 前回の講義内容を復習, 理解し, 授業前に必ず一度は教科書の予定範囲を予習（1 時間程度）として読んで, わからない点を把握しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼りだす。
- 解説は, 不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学習の到達目標

- 公衆衛生の概念, 感染症, 予防医学を理解する。
- 人の一生の前半期である妊娠, 出産と, 胎児, 新生児, 乳幼児, 青少年, 成人期, 老年期, 各期の健康と母子保健, 学校保健について学び, 理解する。
- 人の健康の維持増進, 疾病予防を実践するために関わる環境因子を把握し, 環境衛生を学ぶ。
- 疫学の歴史, 概念について理解する。曝露と疾病, 疾病頻度の指標を理解する。
- 各種の疫学研究方法を学び, 理解する。

7. 成績評価の方法・基準

1) 基準

公衆衛生学について基礎的な理解ができているかを評価対象とする。

2) 方法

- 受講態度（出席, 遅刻, 早退, スマホ閲覧, など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）
- 筆記試験（小テストを含む）（70 %）。

8. テキスト・参考文献

教科書： 学生のための現代公衆衛生学 【 第8版 】 野中浩一 編 南山堂 2022 年

9. 受講上の留意事項

あらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習は、その日のうちに行うこと。また不明な点、理解できない点があれば遠慮しないで質問すること。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。本授業は、以下の実務経験を生かして実施する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。